

マーケットの動き（2026年7月13日～7月17日）

先週の米国国債市場は、前週末比でほぼ横ばいでした。

週初は、中東情勢の緊迫化を背景とした原油価格の上昇によりインフレ懸念が高まり、債券は売られました。その後、14日発表の6月の米国CPI（消費者物価指数）と、15日発表の6月の米国PPI（卸売物価指数）がともに市場予想を下回ったことを受け、利上げ観測が後退し、債券は買い戻されました。

欧州国債市場は、前週末比で金利は上昇しました（債券価格は下落）。

投資環境見通し（2026年7月）

長期金利は、米国、欧州（ドイツ）ともにレンジ内で推移

米国：インフレが警戒され、FRB（米国連邦準備制度理事会）による年内の利上げ観測が広がる一方、減税効果一巡後は景気が減速する可能性もあります。長期金利はレンジ内で推移するとみえています。

欧州：ECB（欧州中央銀行）はインフレ圧力の高まりを理由に利上げを決定し、その後もインフレの高止まりを指摘する要人発言が相次いでいます。一方、これまでの原油高による消費者心理の悪化もあり、ドイツ長期金利は米国長期金利と同様にレンジ内で推移するとみえています。

	7月17日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	4.55	▲0.01	0.05	0.32	0.09
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース（騰落率）	690.70	0.36%	0.44%	2.76%	12.32%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

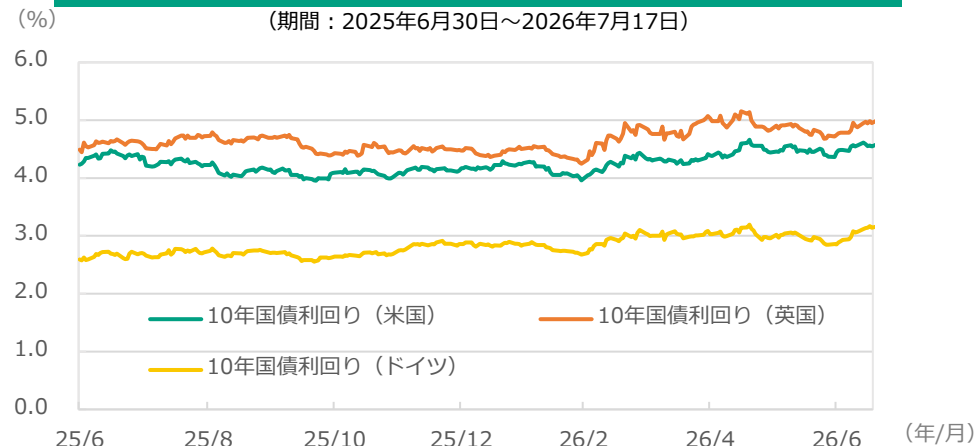
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202607_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客様の投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客様自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

主要国国債利回りの推移

（期間：2025年6月30日～2026年7月17日）



FTSE世界国債インデックスの推移

（期間：2025年6月30日～2026年7月17日）



※2025年6月30日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成